10　こうちこどもファンドフォーラムプログラム

こうちこどもファンドフォーラム

１６：００～　**開会**

１６：１０～　**こどもファンド 10 年の取り組みと成果等の紹介**
10 年の取組をまとめた動画を上映します。

１６：２５～　**わくわくトークタイム**
これまで活動した活動団体や審査員を務めたこどもの皆さん、地域に大人の方々に活動してみた感想などを発表いただきます。

１７：５５～　**閉会挨拶**

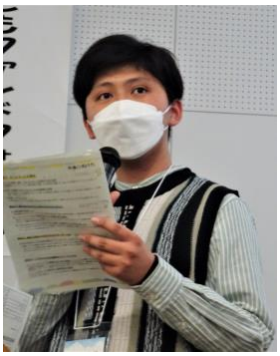
１８：００～　**閉会**

11　こどもファンド10年の取り組みと成果等の紹介

こうちこどもファンド 10 年の取り組みと成果等を紹介する動画の上映を行いました。

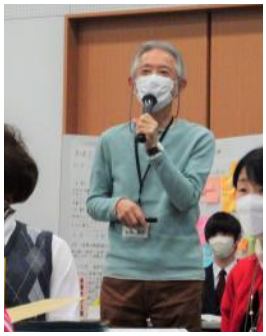
高知市まちづくり活動検討委員会
答申書の全編はこちらから↓

12　わくわくトークタイム



司会：青木　晴楓
第 5 期～第 11 期こども審査員

増田　光祥
第 3 期～第 11 期こども審査員



進行：卯月　盛夫
※平成 24 年度～高知市子どもまちづくり基金
助成金交付審査委員会　大人審査委員長

畠中　洋行
※こうちこどもファンドアドバイザー

卯月氏

今、動画の中で紹介もありましたけれども、この 10 年間の取組を検討して参りました。今日、お集まりいただいた方はごくごく一部です。そこで、この検証の結果を、皆さんに配布させていただいたピンクの冊子(高知市まちづくり活動検討委員会答申書)にまとめました。

これまでの成果と課題、それから今後に向けた「7 つの提言」を、今年の 2 月 28 日に市長へ答申しました。

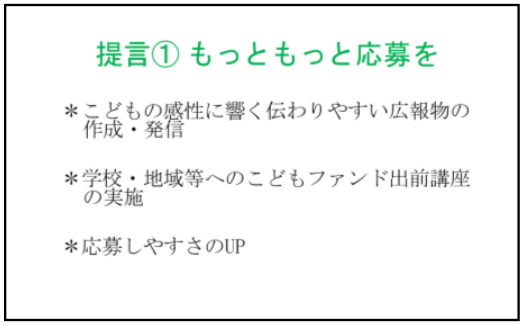
その「7 つの提言」について、今日お越しいただいたパネリストの皆さんにもご意見を伺ったり、少し補足をしながら説明をさせていただくことが目的です。洋行さん、お願いします。

畠中氏

先ほどの活動発表会等々、OB・OG の進行が見事だったので我々少しプレッシャーを感じています。しかも、限られた時間の中でいろんな人にお話を伺わなくちゃいけないので。

さて、頑張りましょう！

まず、提言①「もっともっと応募を」。



アンケート回答者全員が「こどもファンドをやって良かった」あるいは「そこから得るものがいっぱいあった」と答えてくれているのですね。そういう貴重な経験・体験をもっといろんな人に広めていくために、こういうことをやっていったらどうでしょうねという想いを込めて出てきた提言ですね。

検討委員会の中で、活動団体・審査員を経験した検討委員会の方が、応募要領が分かりにくかったという声が上がっていました。

さて、AOYAGI 地域盛り上げ隊の方、応募する際に応募しにくい、とっつきにくいという印象はありましたか。

AOYAGI 地域盛り上げ隊　活動団体こども：近森氏

とっつきにくいというより、発表した後に質問をされると思いますけど、それに答えられるような発表の仕方というか、内容を考えるのが難しくて、畠中さんがアドバイスしてくれて、質問で突っ込まれる場所を自分で考えて、そこを聞かれた時に答えられるように準備したら良いのではないかというアドバイスをいただいて、それで発表をしました。

畠中氏

なんか嬉しい。ありがとう。例えば、もう少し申請書がこうなると書きやすくなるなあというのはなかったですか。

AOYAGI 地域盛り上げ隊　活動団体こども：近森氏

はい。私たちが応募した時は、私たちの１個上の先輩がいたので、主に先輩方と大人サポーターの方との協力で応募が決まりました。その時に色々たくさんの資料を書かなくてはいけないと聞いていたので、資料の手間がかかることがあることで応募しにくいというのはあるのではないかとは思います。

畠中氏

では、もう少し資料の簡略化があったらいいよねということですね。AOYAGI 地域盛り上げ隊さんは 2018～2021 年だったかな。その時からいうと、申請書はもう少し簡略化されているかもしれません。

もう１つ、大人サポーターで学校の先生がなってくださっている場合、学校の先生もかなりお忙しいと思いますので、かなりのご負担がかかっていたと思います。その当時、AOYAGI 地域盛り上げ隊の大人サポーターをされていた植田先生、そのあたりは実際どうだったのでしょうか。

AOYAGI 地域盛り上げ隊　活動団体大人サポーター：植田氏

はい。実は、こどもファンドに応募する数年前から高須ふれあいセンターのセンター長から、こどもファンドやってみないかと、ずいぶん前から声をかけていただいたのですが、なかなかこどもたちが書かなくてはいけない資料も多かったので、一緒にできるのかなと自分も悩んでいたところでしたが、自分たちのもう１つ上の代のこどもたちだったら、もう少し街を良くしたいという思いが強くあったので、この子たちと一緒だったらできるなという思いでやらせてもらった背景があります。すごく大変ですけど、やりがいや達成感を私もこどもたちもすごく感じていたようでした。実際にやってみると良いなと思えるのですけど、一歩踏み出すまでがなかなか大変なのだなというふうに感じました。自分も悩んでいた時に洋行さんに一度来ていただいて相談してみてはどうですかという風に地域コミュニティ推進課の方から声をかけていただいて、相談させていただいた中で、こどもたちがやりたいことと、できることがどう違うのか、その活動を通してまちをどうよくしてい

きたいかなどがすごくよく見えてきました。応募してみたいなと考えている方がいるなら、ぜひ洋行さんに相談してみてはどうかなと思います。

畠中氏

なんだか申し訳ないです。ありがとうございます。もう一方、土佐女子おれんじ flowers の下村先生。

土佐女子おれんじ flowers　活動団体大人サポーター：下村氏

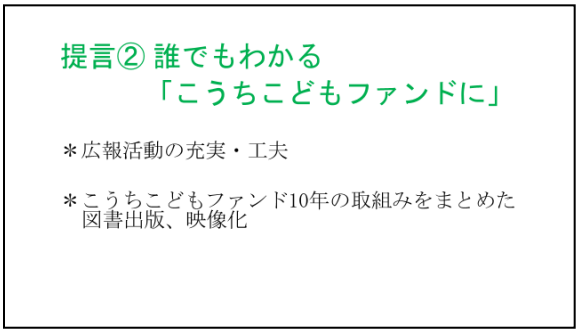
はい。土佐女子中学高等学校は、私立なのでまた別の問題があると思うのですが、まず資料を作る段階で、非公式団体なので、学校の場所は貸してはもらえるのですけど、ちょっと動きづらいなって思ったりしたこともありました。これは公立・私立ともにそうだと思うのですが、すべての締め切りが２月・３月なので、会計など私も色んなものを抱えているのでたまらないくらい大変で、私はこんなことをするために先生になったのではないと数字とにらめっこしていましたが、たぶん先生はこどものためなら何のそのっていう気持ちがあるので、やって良かったかなっていうのは心の底から思ったことです。

畠中氏

ありがとうございます。でもやっぱりこういうことができているのは意欲とか熱意がある学校の先生方がいらっしゃるからできているということなのかなというのもあって、これがもうちょっと気楽にできるような方法も考えていけたら良いのかな、というのが提言①でした。

畠中氏

続きまして、提言②。「誰でもわかる『こうちこどもファンド』に」ですが、一般の市民の方にこうちこどもファンドを知っているかを調査したところ、９割ぐらいの方が「知らない」という回答結果で、これは検討委員会でも愕然としました。ここまで認知度がないんだねとガックリしましたが、ただガックリするだけではなくて、「もしこうちこどもファンドに参加して、まちづくりを行ったら、あなたは参加しますか？」という問いに対して「積極的に手伝う」「手伝う」という方が 75％もいらっしゃって知らないだけでそれを知れば力を貸してくれる、そういう潜在的な要素があるんだということが分かったのです。それに関連して、市の関係者のところに座っている山脇さんにお尋ねしたいと思うのですが、山脇さんは当時こどもファンドの担当で制度の立ち上げに関わられて、羅針盤のない中でかなり大変な思いをしたと思います。例えば、応募を知ってもらうためにどんな働きかけをしたか、あるいは知ってもらうためにどんな告知を行ってきただとか、そういうところを教えていただけますか。



市関係者（商工観光部副部長）：山脇氏

はい。制度立ち上げの時は全く何もない状態でしたので、制度を立ち上げる前に全小・中・高校それから南国市にも少し入り込んで、校長先生や教頭先生、生徒会指導の先生に時間を取っていただいて説明をして、生徒分のチラシを印刷してそれを持参してぜひご検討くださいということをやりました。それとは別で例えば町内会とかふれあいセンターの運営員会というものがありますので、そういうところの総会に参加してチラシを配布し、説明の時間を 20～30 分いただいて周知を図ったということです。

畠中氏

それでは、かなり応募をしてもらうための働きかけをしていたということですね。ただ、なかなか広く市民に伝えるため、制度の立ち上げの初期は、記者の方々に取材や報道で来ていただいたりしたと思うのですが、そういうのって一回きりが多かったりします。続けてなかなか来てくれないということもある。会場に入ってきていただいた時に見ていただいたと思うのですけど、2012 年～高知新聞社の読もっかＮＩＥ編集部の方に説明をさせていただいて、それから継続的にこどもファンドの取組を掲載してもらえるようになりました。少しでも知らない人に知ってもらえたらと思いますが、この取材時の記事は、取材をされて編集者の方が書くのではなく、こどもたち自身が書いているのです。自分達で記事を書くのはすごく意味があると思うんです。それじゃあ、久重 naturalチームの武林さんに聞こうかな。記事を書いてみてどうやったかということと、周りから何か反響がありましたか。

久重 natural チーム　活動団体こども：武林氏

私が活動を始めたのは小学５年生の時で、その時は私たちの１つ上の先輩たちが活動をしていて、その時に実際に私も久重の活動を書きました。その時は活動をすることに夢中で精一杯だったので、その時に文字にすることはすごく難しかったですが、それを文字に起こすことで、ただ自分たちの活動でまちを良くすることだけではなくて、それを別の人に伝えることで高知市全体が良くなったりだとか、活動をしていることを他の人に知ってもらうことができました。記事を書いて、学校の友達や周りの人も新聞に載っていたねとか読んだよと声をかけていただいて、わたしたちが思っている以上に私たちの活動を見てくれているということを知ることができました。それがすごい嬉しかったです。

畠中氏

本当に自分達で記事を書くというのは、実は自分たちの活動をしっかり振り返って整理ができると思っていて、それを短い文で分かりやすく伝えるために考えることはすごくいいことだと思っています。では、卯月さん、お願いします。

卯月氏

提言②では、「誰でもわかるこうちこどもファンド」にするためには、どんな広報が工夫できますかということが謳われています。こうちこどもファンドは本当に全国から注目されています。一方では、書籍化して発信をすることも謳われています。高知市内、県内の方にももちろん読んでいただきたいのですが、全国の方にも読んでいただきたい。それから映像化するという話なんかも出ていますが、教育長の松下さんに今後の市の教育方針とは違うのかな、どうなのかなということも知りたいので、それから市民協働部の谷脇さんに今後の広報活動についてお話を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

市関係者（教育委員会教育長）：松下氏

ありがとうございます。松下でございます。前任は校長をしておりましたので、山脇さんからは説明を受けた側の人間でございます。こどもファンドはやっぱり活動をこどもがするっていうのはもちろんなのですが、審査員をこどもがやるということが最初聞いたときは少し分かりにくかったのです。しかし、知ってみるとなるほどという感じで、深く取組が広がっていったのだと思っています。

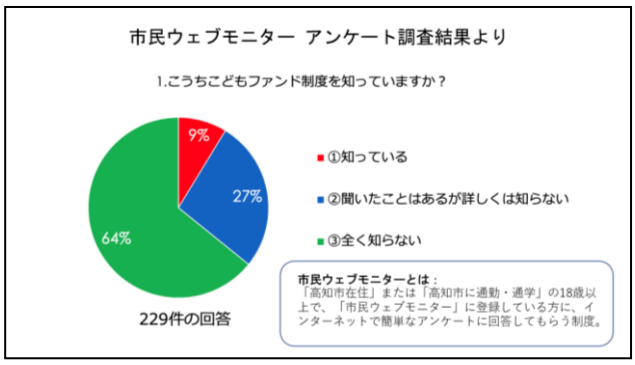
広報活動というのは、これからも広く行っていくべきだと強く思っています。また、映像化ということがもし叶うのであればぜひ行っていただきたいと思います。答申書の冊子も読み込めば内容は分かるのですが、こどもたちの声だとか表情であるとか、成長であるとかそういったものが感じられるといいのかなと思っています。ありがとうございました。

市関係者（市民協働部長）：谷脇氏

はい。やはり、こどもさんたちにこういう活動をしてみたい！と思ってもらえるように、チラシを担当から配って説明してもらうとか、ちょっと思っているのは絵本を作って学校で配布してもらうとか、そういうものがあっても良いのではないかと思います。

卯月氏

ありがとうございます。実は、来月４月１日から日本でこども基本法が施行されます。世界の中でも日本は、「子どもの権利条例」への批准や、こどもにまちづくりに参画してもらうことなど、その他もろもろ大変遅れているので、このこども基本法ができることをきっかけに何か進んでいけばいいなと思っていますが、いかがでしょうか。



市関係者（こども未来部長）：山﨑氏

こども未来部の山﨑です。４月から施行されるこども基本法の基本理念の中に、子ども権利条約の中にある権利が謳われていまして、その中でも意見を表明する機会を確保することを国の方もど

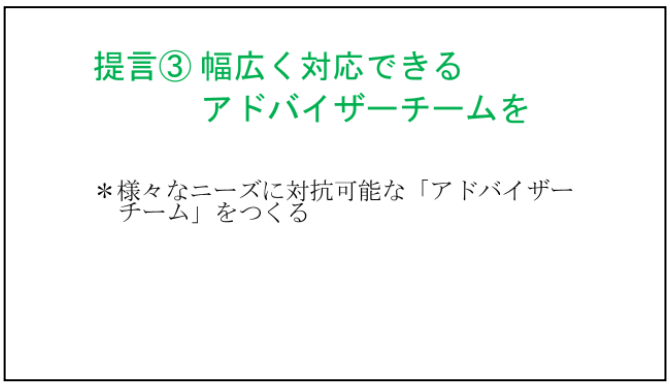
うしたら良いか悩んでいることがあります。ただ、この正解の１つがこどもファンドだと思っています。

卯月氏

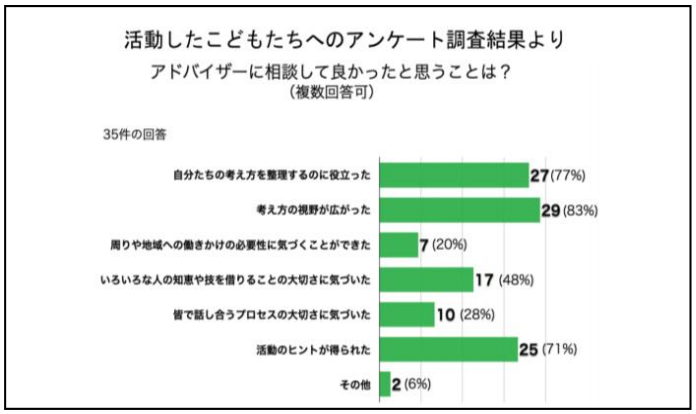
ありがとうございます。それでは、最先端であるこのこうちこどもファンドをもっと広めていくために、映像化、あるいは書籍化をこれから少し検討していきたいと思います。ありがとうございました。

畠中氏

提言③に移ります。「幅広く対応できるアドバイザーチームを」ですが、僕はこどもファンドアドバイザーとして 10 年間、関わらせていただきました。アドバイザーがどんなことをしているかというと、まず４月くらいからの申請時期に、団体が申請書を書くためにまずはどんなことを考えたらいいのって悩む時期があります。そうすると、その団体から市を経由してアドバイザー要請が入ってきます。まず団体にお話を聞くときに、「どんなことをしてみたいの？」と尋ねます。そこをまずしっかり聞き出します。やりたいことと、なんでそれをしてみたいのか、それを一緒に話しながら考え方の整理ができていきます。そしてそれをやることで誰が喜ぶのか、誰のためにやるのかを問いかけて、最後に自分達だけの力でできるのか、もしできないと思うなら、それをしていく中で誰の協力を得ながらできそうかを一緒に話して、申請書を作り上げていきます。このように、こどもたちの考えを整理することがアドバイザーの役割だと思ってやってきました。初対面で、みんなの想いを聞き出しながらそれを書き出していって、少しずつ形にしていくというのは、なかなかスリルがあります。僕はもう今年で 72 歳ですが、おかげさまで体は年を取っても、心と頭は若くいられるかなあというふうにこどもたちに感謝をしています。



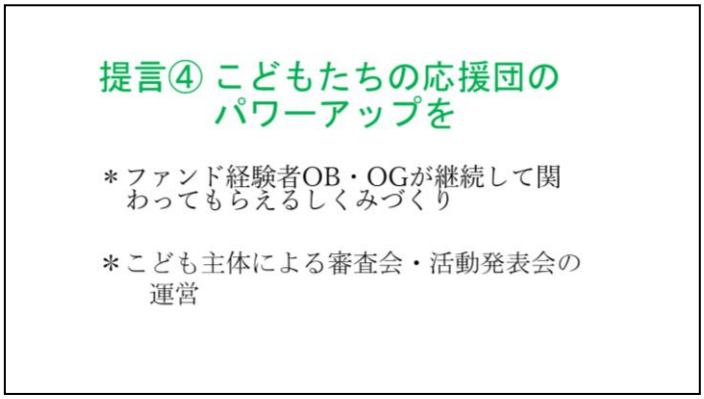
アンケートの中でも、アドバイザーに相談したことで「考え方の視野が広がった」、「自分たちの考え方を整理するのに役立った」、「活動のヒントを得られた」、「いろいろな人の知恵や技を借りることの大切さに気づいた」とか、こういったことをちゃんとこどもたちが受け止めてくれていることをすごく嬉しく感じましたし、先ほどの植田先生のようにアドバイザーを活用してくださいと言われるとありがたい。ただ一人では至らない点があるなあと感じることも多々ありました。



多様な職業の方、多様な経験を積まれた方、あるいはいろいろな人脈を持っている方でチームを構成してアドバイスすることで幅広いアドバイスがもっともっとできていくのではないかと思って、この提言③が書かれています。

畠中氏

提言④です。「こどもたちの応援団のパワーアップを」ですが、これはまさに今日のOB・OGの皆さんが１つの良い事例になっていると思いますが、今日、こどもたち主体で発表会を運営してもらっているのを卯月先生と一緒に見て、これからはこどもたちにお任せしてもいいんじゃないかと感じました。何らかの形でこどもファンドに関わった人たちがこどもたちを応援していくという、そういう思いを持っているのがこの提言④です。



卯月氏

はい。経験者の OB・OG さんももう社会人になっている人も多いですが、便宜上 OB・OG さんと呼ばせていただいています。今日、活動発表会の司会をやってみた二人に大人は聞きたいと思いますが、大原さん、田部さんどうでしたか。

こども審査員 OB・OG：大原氏

そうですね。司会の台本を事前にもらっていたのですが、ほとんどその通りにはいかず、家古谷さん（こども審査員 OB・OG）からプレッシャーをかけられ、めちゃくちゃミスして大変だったのですが何とか終えることができました。

卯月氏

そうでしたか。みんな微笑ましく見ていましたので、必ずしもシナリオ通りに言えばいいというものではないので、素晴らしかったと思います。田部さんどうでしたか。

こども審査員 OB・OG：田部氏

失礼します。そうですね。みんなで発言する機会が自分自身すごく苦手なので、最初岡﨑市長の名前を読み間違えて、その後も噛んでということがあったのですけど、こうやって私たちに発言させてくれる機会を与えてくれるこどもファンドってすごく素敵だなって聞いていて思いました。

卯月氏

はい。では、指示を出していたという OB・OG のリーダー格である家古谷さん。二人の活躍を見ていていかがでしたか。

こども審査員 OB・OG：家古谷氏

そうですね。高知市の方が台本のことをずっと手板と呼んでいたので、打合せの時にここ全員（こども審査員 OB・OG）はじめてその呼び方を知りました。

高知市の方には、台本は堅苦しく書いてあるだけなので、全然好きに変えてもらってと丸投げされたんですけど、たぶん司会の方が一番プレッシャーだったと思うので、私は円滑に進むように声をかけていたつもりで、プレッシャーはかけてはいなかったんですけど、すごく良かったと思いました。

卯月氏

ありがとうございます。１つ目には、今の審査会や発表会の運営を担ってもらうこと、２つ目には、もっともっと経験者の OB・OG が高知のまちづくりにいろんな形で関わっていくこともあるんじゃないかと、でもこどもたちもやりたいっていうのもあるのかなと思って。吉本さんと森本さんに伺いたいと思います。

こども審査員 OB・OG ：吉本氏

僕はこども審査員を２年しか経験していないので、他の方は３年以上審査員を経験されている方が多いので、その中で僕が他の方と違うのは、「まちづくりファンド」、いわゆるこどもファンドの大人バージョンに移動させていただいて、こどもファンドや大学で学び、力をつけてまちづくりに参画するっていうことが、自分はできている。ただ、できれば他の方も流れるようにまちづくりファンドに入ってきてほしいと思ってはいるのですけど、実際形になるのは難しい。そこで、今一番期待しているのが森本向日葵さんです。どうぞ！

卯月氏

そういう風にいくか。ちょっと補足しますと、こどもファンドは10年目ですが、大人の方のまちづくりファンドはもう20年以上続いています。吉本さんは、こどもファンド卒業後にまちづくりファンドの審査員に声がかかり、活動をしています。吉本さんは、高知市民として素晴らしい発言をしていました。

このように、断続的ではなく、連続的にまちづくりファンドの審査もこどもファンドで成長してきたこどもと一体的にできればいいなあと考えていました。それでは森本さん、どうぞ。

こども審査員 OB・OG：森本氏

はい。そうですね。私は小学２年生から高校３年生まで８年審査員をしました。（歴代の審査員の中では）おそらく一番長いと思います。田部審査員も８年一緒にやってきました。小学生から審査員をやってきて地域活動に関わるのってやっぱり楽しいなって思いましたし、他の地域活動もやってみたいと思い、今は地域でリハビリのことを学んでいます。これから自分がどうやって行きたいか、何をしていきたいかを考えられるようになったのもこどもファンドのおかげですし、今回 OB・OG として参加させてもらってすごく楽しかったので、また続けていけたらなと思います。

卯月氏

ありがとうございました。次、提言⑤です。畠中さん、説明をお願いします。

畠中氏

はい。提言⑤「チーム・こうちこどもファンドとしての動きへ」は、どの団体もいい活動をしていますが、自分たち以外の団体もいい取組をしていると知ることも大事ではないか。そして、それを自分の団体の活動に反映をしたり、あるいは協力できるところは一緒になってやってみたり、点での活動が線につながり、面になって広がっていくそういうことを考えながら、こどもファンドが持つ力を広めていけたらいいよねということです。

提言⑤「チーム・こうちこどもファンド」としての動きへ

＊こども審査員が活動団体の活動を見学・参加できるしくみ

＊こども審査員とこども審査員サポーターの交流

＊活動団体間の交流

卯月氏

はい。ありがとうございます。「チーム・こうちこどもファンド」という名称がすごく魅力的なのですが、現役のこども審査員である青木さん、増田さんの話も大きく影響していると思います。今日の発表会でも「私もイベントへ参加した」とお二人からも聞いたように、こども審査員は審査をする立場ではあるのですが、活動に参加したり、ぜひ参加したいという声も発表会の中で聞きました。正直、こどものみなさんは忙しいから活動には来ないだろうと思っていたのですが、恥ずかしい気持ちになりました。審査員にも活動を見てもらうことで、団体にアドバイスをしてもらったり、そこから学んでもらったり、そういう関係性がチームと言えるのではないかと思っています。そういう部分を青木さん、増田さんに聞いてみたいのですがいかがですか。

令和５年度こども審査員：青木氏

はい。私は審査員だけじゃなくて、活動もしていた経験があるので、発表会の中で、活動で何をしてどんなことを実際感じたとか、あの限られた時間の中で言うのは難しかったのですが、当時の団体のプレゼンテーション

では珍しい、唯一紙媒体で発表をさせてもらいました。当時は活動発表会の際に、写真などを見せることが難しかったので、今回申請のあった団体の活動に、実際に参加させてもらって見ることで、こどもが思っている感情を共有できたり、参加した人からこういう反応が実際に得られていたことなどをリアルに感じれたので良かったなと思います。ありがとうございます。

令和５年度こども審査員：増田氏

失礼します。僕は審査員７年目ですが、毎回活動発表会でプレゼンテーションを見させていただいたなかで、プレゼンテーションはもちろん素晴らしいのですが、資料しか見ることができなかったため、評価がしにくかったのですが、今年度は地域コミュニティ推進課の担当者の方が、常に団体の活動写真とか動画とかを送っていただいたことで、その時の規模間とか、雰囲気などを見たり感じることができ、内容が分かったうえで今までとは違った審査や評価ができたので良かったと思っています。

畠中氏

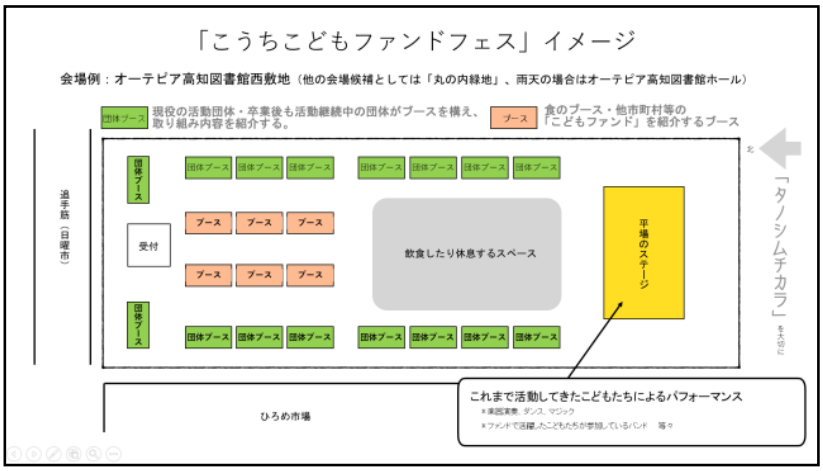
今の増田さん、青木さんからもありましたし、今日の活動発表会でも出ていましたが、活動団体間の交流については、実は今までこんなことができたらいいよねって思っていたことが、今年は特に地域コミュニティ推進課担当者の石村さんが頑張って連絡を取りながら、いろんなところで人がつながる工夫を考えて、スケジュールを取ってやってくれていました。スライド左端のチームは、早めに集まって情報交流をしたり、広場で行われるイベントにみんなで参加してみようとか、それからスポGOMIだったり、いろんな団体が参加してくれています。今年はすごく特徴的だったと思うのです。こういったことができてきたと。これを経験してみて例えば Différent の瀧本さんとか上田さんが何か感じたことや得られたものはありましたか。

Différent　活動団体こども：上田氏

はい。ご質問ありがとうございます。私たちは２年前から活動を行わせてもらっていますが、今回のこういった活動というのはすごく新鮮で、いろんな団体とも交流ができたと思っています。これをやっていくうちにすごく感じたのは、やっぱり参加する団体がごく一部に限られてしまうこと。情報交換だったり、イベントだったり。これは、こうちこどもファンドの年間カリキュラムとして情報交換会を開いて、皆さんが一堂に集まれる機会を作ればすごくいい機会になると思いました。

畠中氏

ご意見ありがとう。それに関連するのがこれです。今の上田さんの話に関連する話です。「こうちこどもファンドフェス」という、西敷地を活用する例をあげていますが、現役の活動団体だけでなく、これまで活動をしていた団体、あるいはまだ活動してないけどなんか興味があるなあという人たちも、ここに集まってブースをかまえて発表をして、交流をする。それだけでは面白くないから平場のステージで、これまでのこどもファンドの団体では、ダンスをしたり、音楽を演奏したりする団体もいましたし、マジックをやる人たちもいました。あとそのメンバーが所属しているバンドをやっている人たちもいました。そういった人たちが１年に一度、一堂に会して、みんなで交流を深める、それを難しくやるのではなく楽しくやる、こんな１日があるといいよねと思いますが、上田さん、こういうのどう思いますか。



Diffrent　活動団体こども：上田氏

とてもいいと思います。そこに審査員の方々をお呼びしたら先ほどの提言にあった審査員との交流にもつながるし、視野が広がると思います。しかもここならオープンスペースなので、ここ（総合あんしんセンター大会議室）だと閉鎖的で自分が来たいと思った人しか来ない空間だけど、オーテピアの横で外ならいろんな人を呼べるし、ふらりと来た人が寄れるので、先ほど挙げられていたこどもファンドを知らない人、市民全体としてもアンケートで９割以上の人が知らいないという結果が出たことで、私たちも交流しながら且つこどもファンドを広めるいい機会になると思いました。

畠中氏

なるほど。ありがとう。土佐女子おれんじ flowers の皆さんはどうですか。こういうのができたらいいなと思いますか。あるいは今年いろいろ活動をされたと思うけど、どうでしたか。

土佐女子おれんじflowers　活動団体こども：高井氏

はい。今年はいろんな団体と交流できてとても楽しかったですし、このようなイベントがあるとさらに情報共有ができていいのではないかなと思います。

畠中氏

はい。それはここで会場にいるみなさんにも聞きたいのですが、もしこのようなイベントがあればぜひやってみたいという人がいれば手を挙げてください。そうか、全員ではないのですね。こういうのもじわじわやる中でということですね。

土佐女子おれんじflowers　活動団体こども：柴氏

私自身、おびさんマルシェに出店してみて、いろんな人と関わるのっていいなってすごく思ったし、こういう人と関わるイベントがあったら自分もすごくやる気がでるし、他の人にもこどもファンドのことを知ってもらえるので、すごくいいなと思いました。

卯月氏

５回も販売したんだよね。その時に『買ってください！』というのは恥ずかしくはなかったですか？

土佐女子おれんじflowers　活動団体こども：柴氏

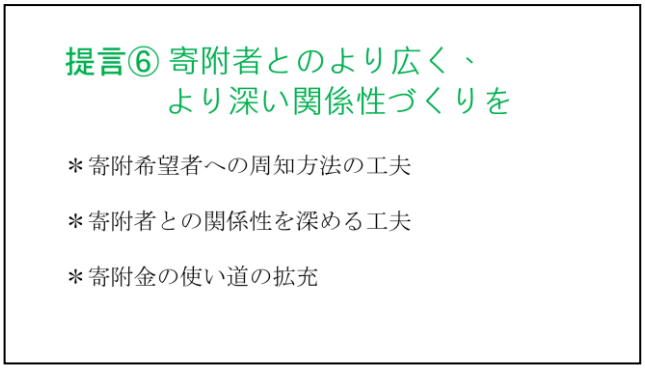
学校のオープンスクールとかでも話をするのは苦手でない方だったので、売るのも恥ずかしくはなかったです。

卯月氏

素晴らしいですね。それは、提言のところでこども審査員と審査員サポーターの交流とあるのですが、今は大人審査員と呼んでいるのを、大人は審査に直接関わっているわけではないので、次年度から審査員と呼ぶのをやめようという話がでました。今、大人審査員の尾崎さんがいるので尾崎さんに、その辺りの必要性ややり方を教えてもらおうと思います。

尾崎氏

今まで大人審査員は、審査は全くしていなくて、こどもたちのサポート、もしくは応募団体の皆さんの意見を引き出す役割をさせていただいていたんですけど、次年度からはしっかりと役割を明確にしてこどもファンドをサポートしていきたいとは思いますけど、今日の発表会の様子を見ていても、正直大人がサポートする必要はないのかもしれないと思いました。大人がサポートしていなくてもこども審査員の皆さんは審査もしますし、発表会の質問もしてくれていますので。



卯月氏

困った時にサポートが必要な時もあるからね。先回り先回りするのがいいわけではないかもしれないですね。

畠中氏

それでは提言⑥いきます。「寄附者とのより広く、より深い関係性づくりを」という提言ですが、この 10 年間で寄附の件数が 198 件、これまで寄附金総額が約 1,337 万円、助成金総額が 1,100 万円。ある意味では、これまでずっと寄附金で助成金が賄われているということですね。

先ほどの市民ウェブモニターのアンケート結果でも、寄附をしたいというように言ってくださっている方が潜在的に多くいることからも、この方々にどうやって寄附をしてもらうようにするか、これが寄附を広く募るということにつながりますし、あるいは今日もここにお越しくださっています寄附をしていただいている皆さん方とより深い関係性を築いていくことも大事なんじゃないかと。ある意味では、こどもファンドのファンが増えていくといいよねというのが提言⑥です。

卯月氏

スライドでもあったように、これまでの寄附額が助成額を上回っているというのが、口では簡単に言えるけれども、その話を一番最初に聞いたときは信じられなかったですね。こどもファンドに先立って大人のまちづくりファンドを作っていました。もちろん、寄附を募っていましたが、金額が二桁違いましたね。こどもの将来や、こどものまちづくりにそれだったら協力しよう！と思って寄附をいただけたのかなと思って、寄附者全員ではないですが、いくつかピックアップしてインタビューさせていただきました。今日はその３名の方にお越しいただいていますので、お話を伺いたいと思います。片岡さん、みんな驚くのですが、どうしてこんなに寄附が集まるんですかねと聞くのは変かもしれませんが、どう思いますか？」

寄附者パネリスト：片岡氏

単純に事業がいいからにつきますね。こどもたちが地域のために自分たちで何が大切か、どんな課題があるのかを一人一人が考えて実践していますよね。地域を良くしたいと、全員が思わないと地域って良くならないですよね。会社の経営もそうですけど、社長だけが会社を良くしたいと思って取り組んでも、みんなで良くしようと思って取り組まないと良くならないんですよね。こういうことで応援してくれる人をコツコツ増やしていくことは大切だと思います。寄附の件数合計 198 件ってありますけど、僕はまだまだこんなものではなく、伸ばせるとしか思えないのですけど、あと３倍はいけますね！

卯月氏

本当ですか！高知で！？

寄附者パネリスト：片岡氏

はい。ただ、先ほども話にありましたけど、携わったみなさんがやってみたことをみなさんで発信して、こういうことが良かった、こんなにまちが変わったんだと皆さんが発信して話をするだけで一番の広告になるので、当事者が巻き込んで身近にある企業とかにこんなことに携われたんだよっていう、これを発信することが一番の広告になります。

卯月氏

今これを聞いていて感動したのですが、私はまちづくりをずっとやってきて、みみっちいなと思いました。東京周辺でやっていると、やっぱりお金ってなっている部分があったので。お金は１つありますけど、活動の中でこんなことを協力してほしいっていって、片岡さんのところではできなくても、他に協力できる企業はたくさんあるとおっしゃってくださいました。ちょっと報告していただけますか。

寄附者パネリスト：片岡氏

そうですね。今、建設業自体も本当に人手不足です。こんな活動をしているこどもたちって、自分たちからしたら会社に入れたいですよ。全員入ってほしいぐらいです。こんな活動をともに何年もできる環境があれば、お金だけじゃなくて、もっと企業も巻き込んでいってもらいたい。事業を見に来てねと。その中で手伝ってもらいたいことがあれば、これも手伝って下さい、あれも手伝ってください言ってもらえるのがありがたいですし、逆に企業からしても、企業のことを知ってもらえるしありがたいじゃないですか。こういった活動をやってみませんかとこどもたちが回ってきて話してきたら、嫌な企業なんてほとんどないと思いますけどね。

卯月氏

ありがとうございました。それでは、宮本さんにも聞いてもいいでしょうか。ちょっと業種が違うので、教えていただきたいですけど、こどもたちが活動を手伝ってとお願いしてもいいものなんでしょうか。

寄附者パネリスト：宮本氏

はい。基本的にその点は協力できる体制にあると思いますので、あるいは自分たちが協力できなくても、お知り合いを紹介することを含めて協力ができると思います。また今もお金だけじゃなく、そういう形で皆さんとコミュニケーションを取りながら携われていけたらいいなと思います。

卯月氏

ありがとうございます。渡辺さんにも聞きたいのですが、渡辺さんはまちづくりの仕事をされているということで、そういった企業やこどもたちを結び付けたいとかいろいろな可能性があると思いますので、企業の方々と関係性を深めるためのアイデアやお考えがあれば教えていただけますか。

寄附者パネリスト：渡辺氏

まさに私は高知県の中山間地域のいろいろな計画に関わっていますが、圧倒的に求められているのが「人材」と「費用」。その「人材」というのがほとんどの地域が「若い人の力が欲しい」と言っています。そういった

若い方のアイデアや発想っていうのが、実は日本の社会の問題点に直結していて、すごく大切なことを伝えているなという気がします。やはり、地域や団体もつながりを求めているところがあると思いますので、お金だけじゃなく、もちろん手伝えることは手伝わせていただきますし、アイデアとかいただけるのであればそれはすごくありがたいことだと思います。

卯月氏

ありがとうございます。とても心強い３人の発言ですので、ぜひ次の 10 年もということではなく、来年も再来年も企業市民という言葉もありますから、何か関係が作れたらいいなと思います。この３つ目にですね、寄附金の使い道の拡充があります。少しお話しすると、今ご寄附いただいたお金は、基本的には助成金として使っているのですけど、助成金だけではなく、こども基本法の中でもっともっとこどもたちの意見が言える場を作っていく、あるいはさらに広報しようなどそういう目的に使ってもいいのではという話もありまして、それは市役所の方でも判断があると思いますし、もし使う場合はそのように企業に言わなくてはならないと思いますので、やっぱり市長にお伺いしたいのですが、「寄附金の使い道の拡充」についてどう思いますか。

市関係者：岡﨑市長

質問ありがとうございます。寄附に関しては非常に関心が高く、先ほど片岡さんもおっしゃられましたが、もっと知ってもらえる機会が増えれば、寄附もさらに増えると思います。

こどもファンドに関わらず、個人や企業の皆さんからいただいた寄附が、どういうことに使われたか、ということをフィードバックすることが大事なので、そういう意味では実際に来て見ていただいたり、実際にこういうことに使われていたのかと納得いただくことが大切かなと思います。

事業は 10 年経ち、これまで上限 20 万円で様々な優れたプレゼンテーションをいただいてきましたので、いろいろな可能性を秘めています。大人審査員も先ほどサポーターに名称を変えるという話も出ていましたけれども、サポーターももういらないのではないかという本質的な話も出たからね。なるほどそうかと思いました。今日こども未来部長は時間がなくてあまり説明はできませんでしたが、４月からはじまるこども基本法が施行されて、国は令和５年度に政策で「こども大綱」を策定しますが、たたき台を見ると、全部こども中心に書かれています。例えば、こども家庭庁の政策については、あまり知らないかもしれませんが、こどもには意見を表明する権利という「意見表明権」を持っています。政府があまり言っていないだけで、意見を言う権利は保障されていて、すべてがこども主体で書かれています。審議会も基本的にはこども中心でやると言っているので、そういうオフィシャルな形式でやるのは国も初めてではないでしょうか。我々はそれを先行してやっているわけですが、そうすると、こどもファンドの寄附金の使い道も自ずとこれから考えていくことになると思います。具体的なことはこれからですが。本当に政府は今こども主体で政策を考えており、政策も審議会でこどもの意見を聞いて決める、ということになっていきますので、我々は 10 年前からやっていてよかったなと改めて思っています。

畠中氏

１点だけ寄附者の方々にお尋ねしたいことがありますが、例えば「寄附金の使い道の拡充」という考え方に対して、さっきのようなこどもファンドフェスをやるという時に、フェスの費用を市が予算建てをするとなるとなかなか時間がかかると思いますけど、こういう寄附金を使ってもいいじゃないだろうかということについてはどうでしょうか。

寄附者パネリスト：宮本氏

先ほど岡崎市長からそこについての意見は出なかったと思いますが、寄附者の企業の立場としては、フェス開催などにもぜひ使っていただいてかまわないと思います。

畠中氏

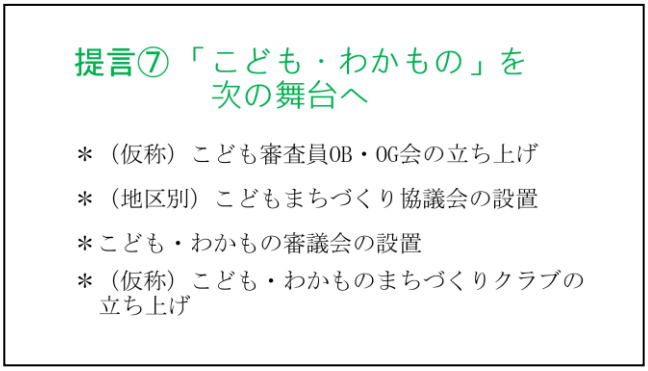
ほかの皆さんもそんな感じですか。

寄附者パネリスト：片岡氏

そうですね。基本的にこの寄附っていうのはこどもたちの未来のために寄附をしているところがあるので、こどもたちの未来につながるのであれば、全然どんな使い方をしてもらってもいいと思います。

畠中氏

ありがとうございます。提言⑦は「こども・わかものを次の舞台へ」という見出しですが、こどもファンドも 10 年経って、当時審査員の子は現在大学生や社会人になっています。そういう意味では、育ってきているこどもやわかものが活躍できる受け皿はやっぱり大事なのではないかとできているのがこの提言⑦です。



卯月氏

仮称ではありますが、もうすでにこの OB・OG 会は立ち上がっているっていう風にも思いますが、まずこれについて家古谷さん、どう思いますか。

こども審査員 OB・OG ：家古谷氏

これまでも卯月先生と OB・OG 会の立ち上げについて話していて、その当時の地域コミュニティ推進課の課長に話を持ち掛けてみたんですけど、その時は却下されました。今年は担当の石村さんが主に活動団体と関わってこられたと思うので、活動されてきた方々も含めて OB・OG 会にして、現役での活動は審査員、団体ともに高校３年生までという括りにはなっていますけど、それ

以降でもこどもファンドに関わりたいと思ってくれている人たちもたくさんいると思うので、OB・OG 会の立ち上げをしたいなと思っています。

卯月氏

今年度活動発表会の準備の企画から当日の運営まで関わってみて、ある程度実績もできていると思いますので、その他で何かやりたいと思っていることはありますか。

こども審査員 OB・OG ：家古谷氏

そういう意味では、今年の活動発表会でこども審査員 OB・OG からの賞が贈れたということで念願が叶ったと思 っています。

卯月氏

念願だったの？

こども審査員 OB・OG：家古谷氏

念願でございました。あと、関われるとしたら「こども審査員サポーター」がいらっしゃって、そういうのにこども審査員の OB・OG が 1 名いてもいいのかなって思います。

卯月氏

なるほど。だんだん大人に育ってきているのですね。大人審査員が危うい状況になってきているんだけど。アドバイザーやこども審査員サポーターの線引きが分かりにくくなっていますけど、これまで審査員として活動してきたこどもたちが現役の審査員のこどもたちにアドバイスする内容というのは、大人とは根本的に違う内容になると思うので、役割を分担できるといいなと思います。

2 つ目は、久重のこどもたちに聞いた方がいいですよね。

畠中氏

「地区別こどもまちづくり協議会」とありますが、これは久重地域連携協議会の部会の 1 つ「久重 Youth（ユース）」として、こども・わかもの部会を立ち上げ、令和 5 年 4 月から活動すると先ほど報告の中にありました。武林さん、久重のまちづくり計画に関わられていたり、あるいは久重 Youth として、この部会が生まれてきた経緯であったり、それに対する地域の人たちの期待っていうのを教えていただけますか。

久重 natural チーム　活動団体大人サポーター：武林氏

久重 natural チームは約 4 年前に立ち上げたのですが、その前は小学校の高学年を対象にやっていました。でも学校の方が、もうやらないので、さあどうするということを地域に投げかけられた時に、活動を 2 年間見てきた保護者が、あんな素晴らしい活動をどうしてやめるのかと、地域が引き受け

ました。それは、先ほど青柳さんが言ってくれた質疑応答のピリピリ感、緊張したこどもたちっていう話があったと思いますが、保護者は逆に、「あんなに魅力的な質疑応答はあるものか！」と思いました。公開審査会で鍛えられる。なんて答えようか考え、なんとか答えようとするところ。それからこども審査員との「こども対こども」というところがすごく魅力的でした。

こどもファンドを久重地域で引き受けたのですが、それをこどもたちに「やってみんかえ？」と声をかけたのは大人でした。こどもたちは、久重の「自然しかないところで、何ができる？」というところからのスタートでした。

そこでアドバイザーである洋行さんに来ていただいて、いろいろ分からないところを大人も分からないまま相談させてもらって、洋行さんと一緒に大人もこどもからいろいろ意見を聞き出しました。この地域にはこども時代から過ごしてきた人がいっぱいいて、出会う機会がなかった大人の方やこどもたちと活動をしました。1年後には、こどもたちが「久重にはいっぱい宝がある！もっとあるかもしれん！」と言ってくれるようになり、この4年の活動が積み上げられてきたと思います。

5年前に、久重の向こう5年間を考える「第1期久重のまちづくり計画」を地域で考えました。その時は、ほとんど大人同士で集まって会議をしていました。その後、第2期ということで行われた計画づくりに、「久重 natural チームのこどもたちが入ってみないか」という投げかけがあり行ってみると、大人は普段平日の夜に集まっているけれども、土曜日のこどもが参加しやすい日に変えようという話になり、こどもも参加しやすくなりました。

その後、2回、3回と会を重ね、コロナで集まれない時期もありましたけど、回数を重ねるうちにこどもたちが楽しくなっていき、策定会議がいよいよ終わるという時に、もっと「久重地域の方と話したい！」と言って、自分たちでもっと集まれることができないかという声があがりました。

そこでまた洋行さんに相談をさせていただき、こども・わかもの部会を作る手法もあるよと教えていただきました。こどもたちが前を向いてぐいぐい行くようになって、私たちはほとんど引き下がるような感じで、今はこどもたちが私たち大人のずっと先を行っています。

畠中氏

ありがとうございます。実は、この2期目のまちづくりの計画づくりに久重 natural チームのこどもたちが 15 人くらい参加をしていまして、最初に自己紹介した時に僕もその場にいましたが、「5年後ということは、僕はもう 20 歳を超えているので、このことは他人事じゃないんです。僕たちの問題です。」と語ったのです。それを聞いた地域の方たちは涙を流していました。僕も、めちゃくちゃ嬉しかったです。そうやって活動を続けてきているから、こどもたちは育ってきている。最初は地域の方もこどもファンドのことをあまり知らなかったですよね。それが、活動をしていく中で、地域の方が「こどもファンドでこどもたちがこんなことをやってきたんだ」と分かってきて、今度は積極的に力を貸してくれてくれるようにつながり強くなっていって。そうやって、地域の中の信頼感がもっともっと深まってきたのをすごく実感したし、大人がこどもたちからもすごく信頼されて今はすごく重荷になっていないかと心配になっていますけど、橋詰さん、どうですか。これから「久重 Youth」としてどんなことをやれるといいなと思っていますか。

久重 natural チーム　活動団体こども：橋詰氏

久重 natural チームの橋詰倖奈と言います。今回、「久重 Youth 部会」が誕生して、まずやろうとしていることは、久重地域に公園を作ろうとしています。今、久重地域にある公園ではこどもたちが遊べる環境がありません。地元の方が「土地を使っていいよ」と言ってくださっているので、そこにいろんなものを建てたりして、こどもたちが遊べる環境を作り、さらには私たちや高齢者の地域の方が集まって交流の場になったらいいなと思っています。

畠中氏

物を作るだけじゃなくて、福祉とか、計画づくり中で話にいっぱい出ていました。

こういう話を聞いて、秋山さんは、「旭地区防災プロジェクト」で３年間、旭の大人サポーターをされて、その活動が今の「旭っ子記者クラブ」の活動につながっているんですよね。久重地域のこども部会ができた話を聞いて、どうですか。うちでもこういうのやるぞ！という気になりますか。

旭地区防災プロジェクト　活動団体大人サポーター：秋山氏

はい。旭防災プロジェクトの大人サポーターをしていた秋山です。実はこのプロジェクトは平成27年から始めていたのですが、これを立ち上げる際にも畠中さんにもいろいろ話を聞いてもらって、１年後、２年後、３年後地域の未来をどういうふうにしていくのかという話から始まりました。久重地域さんの話を聞いていて、やっぱりこういう活動をしていると地域の５年後のことをこどもの皆さんが考えるようになるということを知れましたし、僕らも３年間こういう活動をやってみて、地域が５年後、10年後、もっと良くなったらいいねという話もちらほら出るようになりました。ただ、ここまで意識が高いかというとそうではないので、久重さんのようになるのはまだまだ学ぶことが多いなと思っています。自分の地域では地域内連携協議会というのが立ち上がっていますが、実際そこ参加するのはもともとずっと住んでいて、活動をされている方ばかりで、若者はほとんどいないんですね。特にこういった若い高校生以下の方は参加しないと思うので、そういった中でこのような活動を作っていくというのは素晴らしいと思うので、ぜひ旭でも立ち上げるように頑張ってみたいと思います。

畠中氏

嬉しい。で、山崎さんが関わられている潮江南の会合でもそういうのが立ち上げられていますよね。そのあたりのお話を教えていただけますか。

潮江南地域連合会：山崎氏

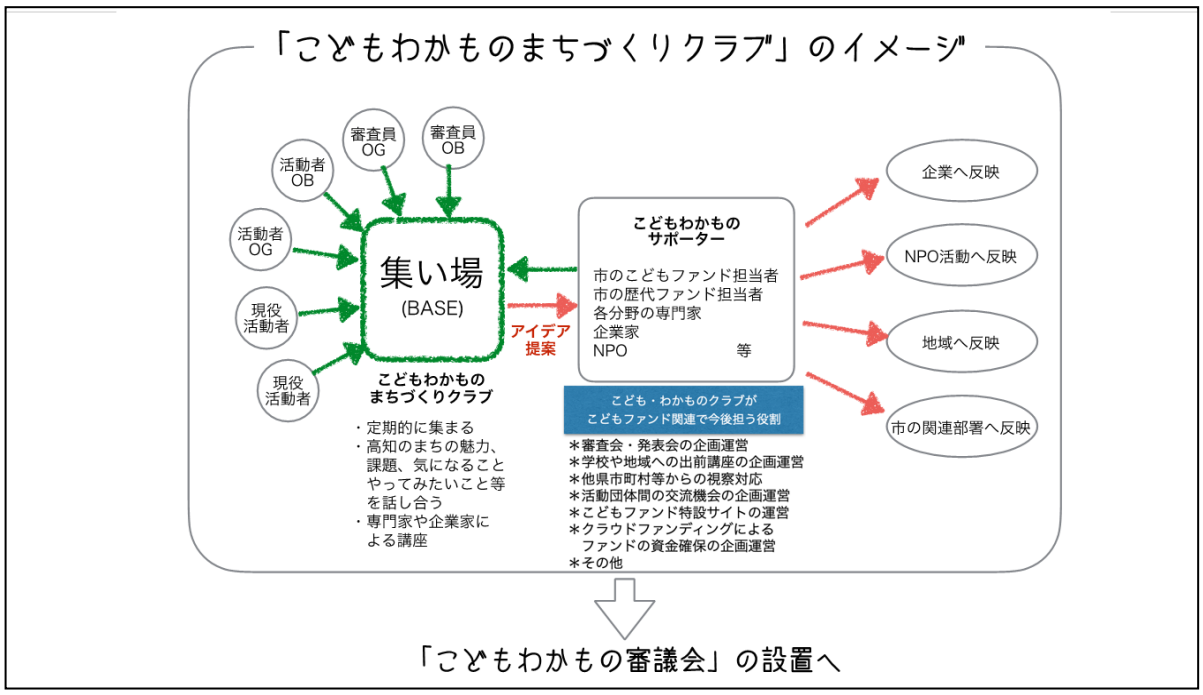
はい。潮江南地区ですけど、この度コミュニティ計画と防災の計画を合わせて作っていますが、計画づくりの時に、まずこどもの意見を聞こうということで、こどもにまちづくりや防災について意見をいただいて、その意見を見て大人も合わせて意見を出していき、計画を作るということをやりました。

畠中氏

ありがとうございます。なんとなくこんな感じで、そういうのがじわじわ広がりつつあるのかなっていう感じがしていて、なんか頼もしいですよね。

卯月氏

今のが「地区別まちづくり協議会」のことを話していて、生活環境に根差した地区別で自発的に上がってきたものを支援していくという体制だと思いますが、今の久重地域の話ではもうはじまっているということですね。岡﨑市長にも、「こども・わかもの審議会」やらなくてはというお話をさせていただいたのですが、なかなかすぐにということは難しいということで、じゃあ前段として、「こども・わかものまちづくりクラブ」という名称でできることからはじめてはどうかと話をしました。これがイメージ図になります。



畠中氏

基本的に、集える場所がどこかにできて、そこに審査員や活動の経験者、それから現役のこども・わかものが集まってきて定期的にそこでみんなで話し合える場所として、高知のまちの魅力とか気になることを話したり、専門家から話を聞いてまちづくりの勉強をしたり、こども・わかものサポーターという形で寄附者など専門的な知識を持った方に来ていただいて、いろんな情報を提供していただく、あるいは歴代のこどもファンドの担当者や NPO の人たちが来て話をするとか。そこで話をしていく中でいろんな提案が出てくる可能性があると思います。そこから、高知の企業へ反映したり、施策へ反映したり、そのようなことを、やんわりゆっくりできていくといいですねというのがこのクラブのイメージです。

卯月氏

まあ、審議会というと条例を作らないといけないでしょうから、審議会を作るための条例を作っていこうというお話でした。委員会の中で、こどもたちの集いの場が必要なのではないか、あるいは月１なのか週１なのか分かりませんが、こども審査員で活動していた子や、場合によっては企業に講師として来ていただくなどいろんな企画を実施していけばいいのではないかと。そこに、寄附していただいているお金を少し使うこともあるだろうという話を市の山脇さんとお話をしていたら、場所がとても重要だよねというお話が出ていました。その辺について、少しご意見をお伺いしてもよろしいでしょうか。

市関係者（商工観光部副部長）：山脇氏

こどもたちが集まりやすい場所がいいのではないかと思っています。中心市街地の商店街の活性化関係についてやっていることもありまして、その中に空き店舗なんかも目立ってきているところがありますので、そういうところを活用してこういう場を設けて、市役所の仕事にも活かしていければと思っています。

卯月氏

山脇さんは商工振興部の副部長でいらっしゃいまして、「まちづくり」や「商工」のためにも集いの場はいいのではないかというご意見をいただきました。実は日本全国の中でも、こどもの居場所や高齢者の居場所作りに取り組んでいますので、自分の中ではできるのではないかと思っています。そういうのができることをどう思う？

こども審査員 OB・OG：吉本氏

「とってもいいんじゃないかな」と思う反面、さっきから「こどもファンドすごい！すごい！」という流れでずっと話が進んできていたので、ちょっとだけ切り口を変えて、僕としては公民館や公共のスペースがあると思うので、「そういうところ使ったらいいじゃん！新しいところにするならお金をくれよ」と思うのですが、もちろん必要です。「こども・わかものまちづくりクラブ」で言うと、僕らこども審査員 OB・OG でいうと勉強会を開きたいです。今日の活動発表会でも、審査員がよく質問しているな～という時もあったのですが、ちょっと質問が出づらい時間もあったので、でもそれはその子たちが悪いのではなくて、何を聞いたらいいか分からない、どんなことを聞いたら良いか分からないという疑問点を潰すために僕たちが「こういうことを聞いたらいいんだよ」ということを伝えてあげる場っていうのは大事だと思うので、こういう集いの場はそういう部分ではいいのではないかなと思います。

卯月氏

だんだん議論が深まってきたところですが時間も限られてきました。

本日は限られた時間でしたが、成果や課題、それから将来に向けていろんな議論が出て楽しかったです。一方でこれからいろいろなことを考えていかなくてはいけないなと思いました。

この 7 つ目の提案の「審議会」、「こども・わかものまちづくりクラブ」の立ち上げに次の 10 年は少しでも近づいていきていきたいと思いますが、最後に市長お話をまとめていただいてよろしいでしょうか。

市関係者：岡﨑市長

この 10 年、こども審査員、そしてそれぞれのグループを温かく見守っていただいた地域の方、そして特に大人サポーターは、地域の方が非常に多いです。これまで誠に感謝しております。

やはり、こどもの皆さんが動くと地域が動くとすべて実感していますし、今日も県外からお越しくださっている皆さん方は傍聴していただいて、こういうやり方もあるんだと思ってもらえると幸いでございます。そして、今日パネリストとしてお越しいただいている皆さんからお話いただいたことを知ってもらえたことは、非常に大きな成果だと思います。

こどもファンドがこれまで継続できたのは、寄附者の皆さま方のおかげです。自分はこども審査員としてこどもが審査するということを、自分は確信的に大丈夫だと思っていましたので、やっぱり間違っていなかったと感じることができました。

本日は 10 年という歳月の中で、当時のこども審査員の皆さん方もスタッフ側で回ってくださっていますし、また「とさっ子タウン」という、高知ならではのこどものまちづくりの取組があるのですが、「とさっ子タウン」でこどもの時来てくれていた方が、そちらも今は大学生や大人となって運営を手伝ってくれる側にどんどん回ってくれているので、それも 1 つの成功事例だと思っています。

卯月先生がおっしゃられたように、高知市では、こどものまちづくりをずっと先行して取り組んできています。国の方もやっと追いついて来て、こども基本法が遅ればせながらできてきました。「意見表明権」とか、「こども審議会」を立ち上げるなどの命題というのがすべて「こども基本法」に入っています。流れとして、まずは「こども大綱」を半年間かけて作っていきます。市の方では、少し体制を変える必要があると思いますが、実際は今もある意味できていますので、次は、それを次のこどもたちにきちんとつないでいくというのが大事で、私としては常に次へバトンタッチしていくイメージをしているので、できることを考えていかないといけないと思っているんですけど、国もある意味、市に追いついて来ていますので、次の 10 年はこれをベースにして、どういうことができるのかということをいろいろご意見いただきながら進めていきたいと思っています。 本当に 10 年支えていただいた皆さま、特に今回、市に提言いただいた委員の皆さま、そして地域のサポートしてくだった皆さま方に感謝しております。本当にありがとうございました。

卯月氏

ありがとうございました。洋行さんの方で最後何か伝えたいことがありますか。

畠中氏

10 年やってきて、僕の中では、こども・わかものの力を信じようという言葉を合言葉にしていくといいなあと。そして、またこども・わかものの力が、地域や高知を変えていく力になっていけばいいなと思っています。ありがとうございました。

卯月氏

ありがとうございました。それでは良いお時間になりましたので、わくわくトークタイムはこれにて終了にしたいと思います。ありがとうございました。

令和５年度こども審査員：増田氏（司会）

ありがとうございました。以上をもちまして、本日のフォーラムは終了と言いたいところですが、昨日はなんと市長の誕生日だったそうです。市長、お誕生日おめでとうございます！岡﨑市長、前のステージへお越しください。

野村副委員長・岡﨑委員・宇賀委員より、OB・OG含むこども審査員からサプライズで寄せ書き・花束の贈呈がありました。

令和５年度こども審査員：増田氏（司会）

最後の最後に、少しだけ時間をいただけますでしょうか。少々お待ちください。

卯月氏、畠中氏に10年間の感謝を伝えるサプライズ動画の上映・花束の贈呈がありました。

畠中氏

ありがとうございました。これで心置きなく卒業できます。ありがとうございます。先ほどのアドバイザーチームは 2023 年度から作りあげていき、2024 年度くらいには退任できるように頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

卯月氏

この 10 年間、僕は高知に行きたくないなと思ったことは一度もありません。また高知に行きたいな、あと何日で行けるだろうと言って、今日のように来ています。何十年と僕はまちづくりのことを勉強しているんだけど、来るたびに新しいまちづくりのことを学んでいます。こんな新鮮なことや、こんな素晴らしい地域はないと思っていますので、今後とも体力の続く限り頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

令和 5 年度こども審査員：増田氏（司会）

ありがとうございました。本日は、お忙しい中お越し下さり、ありがとうございました。

司会進行を努めたこども審査員さん
こうちこどもファンドアドバイザー畠中さん
こども審査員 OB･OG パネリストの皆さんで
集合写真を撮りました♪

集合写真↓